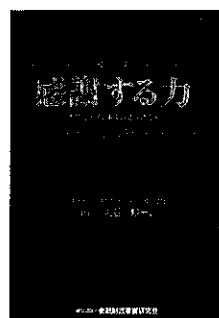


『感謝する力』



澁谷耕一 著／
金融財政事情研究会刊
／1,470円(税込)

「力」となっているのは、人に感謝すること自体が、人生を切り拓き、仕事を成功させる大きなパワーになることを示している。

感謝することの大切さは古今東西数多くの人が指摘しているが、それだけ実践することがむずかしいのだろう。著者は人生においてまず大切なのは「常に相手のことを考え、どうやったら役に立てるかを考える」という志をもつことであり、そのうえで「感謝の心」と「喜ばれることをする」ことだと説いている。著者は本書で人生や仕事のさまざまな心構えを説いているが、それらの多くはけつして目新しいものではない。しかし、若くして最愛の妻に先立たれ、育児や家事で銀行での出世をあきらめ、さらに銀行を退職して起業するという「逆境」のなかで、そうした当り前のことがもつ力を再認識した著者の言葉だけに説得力がある。タイトルが「感謝する心」ではなく「感謝する

力」となっているのは、実践したのは、東日本大震災後の悲惨な被災地で、被災者のために献身的に物資やサービスの提供を続けた多くの人々や企業であろう。被災地では、人に喜ばれたことや社員・取引先への感謝を宝物のように語り、自社の存在意義をあらためて強く認識した経営者が少なくない。そのような経営者が感じたものが著者のいう絶対的な感覚としての「幸福感」なのだろう。なお、本書の後半の二つの章は日ごろの行動指針を含め若者へのアドバイス色がより強く出ている。まだ逆境を経験せず野心に燃える若者に「感謝」といってもピンとこないかもしれないが、第5章の「人生の基礎力」だけは身につけてほしいと思う。(評者・福島銀行社長 森川英治)

週間トピックス

■東邦銀行と日本ATMは2月15日、ATMインターホンによる顧客対応業務と、通帳・カードなどの喪失届電話受付業務のバックアップ体制を構築すると発表した。東邦銀行の同業務は日本ATMの「東京ATMオペレーションセンター」が担っているが、同センターの被災に備えて「大阪ATMオペレーションセンター」でバックアップする。今年5月までに準備を整える。日本ATMは「当社は11のセンターがあり、他の地域金融機関とも同様の体制を構築したい」(広報担当)と話している。東日本大震災の際は「東京ATMオペレーションセンター」に被害はなく、東邦銀行の同業務が滞ることはなかった。

■東日本大震災から2年を迎えるにあたって、七十七銀行はこのほど調査月報特集号「東日本大震災後の宮城県経済情勢と

復興状況について」を発行した。県内経済の見通しについて、「大規模な予算措置に伴う復興事業の進行を背景に当面高水準で推移する」としたものの、阪神・淡路大震災では復興特需が2〜3年で終了したことから、「需要動向の推移を注視し過大投資等を避け、人材育成や生産性向上等の体質強化に結びつく取組みが重要だ」などと指摘した。特集号は同行ホームページにも掲載されている。

■京葉銀行は特定規模電気事業者(新電力)の「エネット」と電力売買契約を結び、3月から電力受給を開始する。同行施設の約3分の1にあたる、営業店など45カ所が電力受給の対象となる。東京電力福島第一原発の事故以降、安定的な電力確保が課題となっていることから、受給の分散化を図る。東京電力のみと契約している現状と比べて年間3%程度の経費節減を見込む。新電力からの電力受給は千葉県内の金融機関では初めてで、武蔵野銀行(埼玉県)や城南信用金庫(東京都)なども新電力から電力を購入している。